

次代の創造

はじめに

AI が人類の能力を超えるまでに、何が出来るだろう。

30 年間続いてきた平成という一つの時代が終わろうとしている今、世界は変化を止めず、進化を続けています。共有経済の発達、サステナビリティという新たな価値の誕生、そして、IT を媒介とした高度な情報化、人工知能の進化が始まり 2045 年には人間と人工知能の能力が逆転するシンギュラリティに到達すると言われていています。そんな時代の変化の中でこれまでであった仕事の多くが自動化され、人間は新たな価値を創造し続けなければならなくなっています。

創造する

それは今現在、人間にだけ与えられた素晴らしい能力ではないでしょうか。この創造するという力を個人、団体として今もこの先も持ち続け、他者に付与出来る団体こそ青年会議所であり、青年会議所会員であると私は信じています。

青年会議所はその発足以来、時代の変化の中で挑戦を続け、新たな価値を創造し続けてきました。伝統文化を残し、無形財産を未来へつなごうとアメリカで生まれた青年会議所はその小さな活動を大きな運動へと変化させ世界規模の組織へと発展してきました。地球社会の進歩発展に資するという壮大な夢を持って発足した国際青年会議所。戦後焼け野原となった日本で「明るい豊かな社会」の創造という理想を持って設立された日本青年会議所。そして、この福山の地で、社会の進歩、経済の繁栄、人類の平和的幸福を達成せん、と創立された福山青年会議所。我々は青年であり、次代に責任を持っています。新たな時代が始まる中で、英知を結集し、この大いなる理想をもって、全力で次代の福山を、日本を、そして世界を輝かしいものへと創造してまいりましょう。

100 万本のばらのまち福山。わがまちには日本、世界に誇れるオンリーワン企業が多数存在し、中小企業数も中核市の中でも多く、地域への貢献意識も高いという特徴があります。他方で現在、日本は人口減少、生産年齢人口の減少による経済規模の縮小、超高齢化による社会保障費の増大とあらゆる危機が襲ってきています。わがまち福山においても 2013 年より人口が減少へ転じており、加えて若年層を中心とした大都市への人口流出という問題を抱えています。福山市はこうした問題を抱える中、その第 5 次福山市総合計画の中で人口減少をあるものと捉え、その中でも市民参加型のまちづくり、戦略的な観光振興、自ら考え学ぶ人財育成、産学金官民連携による産業の活力創造等を柱として今後の市政に取り組もうとしています。そうした中、福山青年会議所は近年、能動的ボランティアのまちづくり事業への参画促進、小学生に対する自ら考えることの出来る人財育成、地元企業と教育機関との橋渡し、そして行政との連携強化等を実施してまいりました。今後も主体的仲介者として、地

域の人々、教育機関、地元企業、そして行政とのつながりを活かし、巻き込み、新たな価値を創造してまいります。

次の夢を現実に

私が入会させていただいた 2012 年、福山青年会議所は燃え上がるような熱気に包まれていました。それは、日本青年会議所主催の第 26 回国際アカデミーの主管に向けて全会員が一丸となり活動し、運動を展開していたからです。世界の同志に日本の素晴らしさ、精神性を伝えることは出来ないか。日本の同志に福山の魅力を伝えることは出来ないか。福山の市民に、子供たちに「国際の機会」を提供出来ないか。福山の会員に世界でリーダーとして活躍する同志の姿を見せられないか。多くの先輩達が本気で未来を、まちを、ひとを想い一つの夢、目標に向かって突き進んでいました。そして、翌年には全会員一丸となり、第 26 回国際アカデミー in 福山を大成功へと導きました。この国際的な事業の主管は、福山が持つ国際交流の潜在的ニーズを我々に教示し、会員の意識を変革し、また、まちを巻き込んだ事業が行政や教育機関とのつながりを与えてくれるという気付きを与えてくれました。この気付きの下、現在、福山青年会議所は「2022 年全国城下町シンポジウム」「2024 年の世界バラ会議」そして「JCI アジア太平洋地域会議 (ASPAC)」招致に関して、福山市と協議を始めています。各種大会の招致が本当に次代の福山を創造するために必要なのか、各々の大会が福山のまちに、ひとに、子供たちにそして会員に、どのような価値をもたらすのかを調査、研究してまいります。次代の夢を現実のものとして、力強く引き寄せてまいります。

新たなまつりの形

福山青年会議所は福山の全てのまつりを司る福山祭委員会企画実行委員長を 30 年以上の長きに渡り輩出し続け、行政と一体となり福山のまつりの形を創造してまいりました。ばら祭では各ファンクションのトップとなる多くの部会長を輩出し、新たな事業に取り組んでまいりました。この新たな事業への挑戦はばら祭の進化に寄与すると同時に、多くの市民を巻き込むことによりまつりに携わる市民のまちづくりへの参画意欲を高めてまいりました。また、2011 年から始まった福山城幸盛ナイトは文化財でもある福山城での初めての夜間開催のイベントとして、福山城の新たな価値を創造しました。さらに、昨年、ロマンチック街道 313 連絡協議会与合同で開催した「R313 ロマンチック JAM2018」では音楽フェスを開催し、その中で福山青年会議所始めて以降初めてのクラウドファンディングを用いた協賛金募集という新たな手法に挑戦しました。まつりづくりはまちづくりであり、まつりをおして参画した人々の心をつむぎ、次代へつなぐ大きな力となります。運営方法、協賛金募集、継続可能性など、次代のまつりや次代の事業への新たな取り組みに挑戦し続けてまいります。

次代の福山青年会議所を創る

「青年会議所は人間道場」これは私が先輩からいただいた言葉です。40 歳までの限られた時間の中で、毎年入会する新たな仲間と出会い、単年度制の下 1 年 1 年違う役をいただき、成長の機会に出会うことが出来る、そんな素晴らしい場所こそ青年会議所であると考えます。近年では今まで出会ったことのないような新たな職種、経歴の方々も入会されており、大いなる学びを提供してくれています。しかし、多くの青年会議所は会員減少に苦しんでおり、福山青年会議所も例外ではありません。ひとはひとによって磨かれると信じています。しかし、新たな出会いがなければ磨かれようがありません。青年会議所はひとを大いに磨き、光らせることの出来る組織です。福山青年会議所の特異性を

伝え、多くの新たな同志を迎え入れることにより、この組織に活力を生み、光り輝く人財をまちに、世界に送り出していきたいと思います。その第一歩である、会員拡大に会員一丸となって全力で取り組み、次代の組織を創造してまいります。福山青年会議所の発展が次代の福山を創造するのです。

選ばれるまち「福山」の架け橋となる

我々はいつ時も「明るい豊かな社会の実現」を目的として運動を展開してまいりました。このまちをもっと良くしたい、このまちに住み暮らす人々に大きな希望を持って欲しい、このまちを誰からも選ばれるまちにしたいと。近年では一般社団法人福山スポーツコミュニティクラブ、一般社団法人福山グローバルパートナーシップ協会、両団体の設立を見届け、多くの会員や特別会員の皆様が関わりながら市民の皆様と新たな運動を創造し続けています。このような運動展開の中、福山青年会議所は一昨年より、外部の皆様と協力しながらインバウンドを主体にしたまちづくりの取り組みを続け、訪れたいまち、住みたいまちを目指して運動を展開してまいりました。その中で行政とまちの人々、さらに地元の若者を巻き込み、大学と提携し、まちの魅力やその発信について調査、研究を続けてまいりました。本年は、この成果を礎に今までのつながりを活かし、持続的に進化発展していける、選ばれるまち推進運動の新たな枠組みを創造してまいります。

次世代の育成

国際人とはどのような人財でしょう。一昔前までその定義は語学が堪能であるといったことや、他国への造詣が深いといったスキルを表す言葉でした。しかし、スマートフォンが通訳機能を持ち、いつでもどこでも検索すれば海外の情報が得られる時代になっています。次代の真の国際人とは自国や故郷の文化、歴史に誇りと愛着を持ち、さらには相手の考えも受け入れることの出来る相互理解の心を持った人財であると考え、福山青年会議所は学校関係者・学生ボランティアの皆様とともに小学校での学校訪問授業を実施してまいりました。本年も福山青年会議所は積極的に周囲と協力して、学校訪問授業、そして福山国際子どもアカデミーでの学校訪問プログラムに参画し、真の国際人とは何か、真の国際人たらんためには何が必要か伝えてまいります。福山青年会議所の学校訪問授業を受けた子供たちが、日本や故郷を誇りに思い、自信を持って物事にあたり、その上で他者を慮ることの出来る人財になる。そして、福山で、日本で、世界で活躍する。そんな真の国際人を育成してまいります。

福山青年会議所はその 58 年の歴史の中で、福山、日本、そして世界で活躍し続ける、リーダーたる人財を輩出してまいりました。それは、福山青年会議所の中での活動が、受身の学びでなく、能動的に動く、リーダーとしての挑戦に溢れているからです。40 歳までという限られた時間の中で、我々は同志とともに切磋琢磨し、自らを磨き社会への奉仕を行っています。しかしながら我々の活動は決して楽で安易なものではなく、挑戦と困難に満ちています。挑戦をし続け、困難を打ち破ってこそ自身の活動に誇りと同志とのつながりを与えてくれます。このような機会を新たな仲間によく提供することにより、我々も新たな仲間から学びを得ることが出来ます。多くの同志、そして新たな同志とともに挑戦し、成長し続けてまいりましょう。

次代の組織に

過去があるから今がある。何故、今こんなにも成長の機会があるのか、福山青年会議所は何をなしてきたのか、そして今後何をなすべきなのか。会員同士、また卒業された先輩方との交流の中で過去を

知ることは非常に重要であり、自身の成長につなげてまいりましょう。そして、会員同士の交流の中で同じ時を過ごし、同じ志を共有し、組織の結束を強固なものにしてまいりましょう。また、昨今働き方改革や女性の社会進出が叫ばれている中で、福山青年会議所も時代の変化に合わせ、その組織を徐々に変化させてまいりました。しかし、時代の変化のスピードは急激であり、現在の組織のあり方やルールが今の時代に合っていないものもあります。来年 60 周年を迎えるにあたり現在の組織形態が今後、もう 10 年、20 年と続いていくにふさわしい状態か見つめなおし、改めるべきは改めてまいりましょう。さらに、会員同士や組織の中だけでなく会員の家族や周囲の方々との交流は理解を得、運動を展開する中で重要な役割を果たします。本年も家族や周囲の方々へ感謝を伝える場をつくってまいります。

青年会議所は青年のみが世界で活躍する最大規模の団体です。この世界のつながりの中で実施される各種大会・諸会議は学びの宝庫です。自らを奮い立たせるセミナーに行き、開催地の周囲を見て回るだけで、その地域の魅力や課題を知ることが出来るといったこともあります。自らの学びや考える基礎となる時間を多くの会員に提供していきましょう。また、福山青年会議所は世界・日本の青年会議所の中でも大変な知名度を持っています。それは今までの出向者が奮闘し、出向先の仲間とともに事業構築の中で学びを得、つながりを構築してきたからに他なりません。本年も多くの出向者を輩出します。全力で応援し、出向者の学びを福山青年会議所の学びとして共有し、未来へつなげてまいります。

福山青年会議所の運動を多くの方にご理解いただき、賛同を得るためには我々からの直接、間接的双方からの発信が必要です。また、情報は積極的にかつタイムリーに届けなければ、相手へ効果的に伝えることは出来ません。情報を精査し、各種メディアを通じて運動をマクロ的に発信してまいります。また、現在はスマートフォンがあれば誰でも情報を発信出来る時代です。情報リテラシーを組織内で確立し、有益な情報、我々が実施している事業、展開している運動を会員個人が正しく発信することで、賛同者を増やしてまいりましょう。

次代への要として

緊張感と張り詰めた空気を感じる各種会議。オンとオフのオンの最たるものが福山青年会議所の例会・諸会議にはあります。厳格なセレモニーから始まり、終わるとなぜかほっと胸を撫でおろす。例会は福山青年会議所の指針を示し、向かうべき方向を伝え、一丸となる場であるとともに、会員同士の親睦を深める貴重な場でもあります。この貴重な場を厳粛かつ学び大きな場に、会員が参加してよかったと思え、会員全員が一丸となって活動に邁進する礎となる例会にしてまいります。また、我々の運動の根幹である各種事業は諸会議から生まれます。福山青年会議所の諸会議もまた厳粛であり、緊張感も漂います。

「青年会議所に挑戦はあるが失敗は無い」とよく教えていただきましたが、失敗はないと言い切れるのはこの厳粛な諸会議を乗り越え、完璧な準備を整えているからです。完璧な準備を促す、諸会議は福山青年会議所の根幹であり、我々の指針であり続けます。

おわりに

2009 年、11 年ぶりに福山の地に帰ってきた私はまちに対する想いや、ひととのつながりを持たない青年でした。それから 3 年後、福山青年会議所に入会させていただき出会った福山青年会議所や出向

先で活動する先輩諸兄や同志は、このまちに、まちの人々に、子供たちに何が必要か、時間を費やし、本気で考え、生き活きと活動をされていらっしゃいました。私はそれまで、自分ではない誰かのために、自分のためではない何かのために本気で考え、悩んだことはありませんでした。しかし、いつしか私も同志と議論を交わしともに汗を流す中で、自分ではない誰かのために、自分のためではない何かのために本気で考えるようになりました。

国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、

あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。

第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディのこの言葉を今では私の座右の銘にしています。福山青年会議所は私に誰かに何かをしてもらうのではなく、何をすべきかを本気で考え、悩むという機会を数多く与えてくれました。同志達との活動の中で私が得たものは、我々の最善の仕事は人類への奉仕であり、明るい豊かな社会の実現だということ
です。そして、それを実現出来るのが福山青年会議所であると信じています。

次代の福山を、日本を、そして世界をともに創造してまいりましょう。